

要旨

韓国におけるコミュニティ参加は、都市貧困層居住地のまちづくりと密接な関係を持っている。とりわけ都市再開発事業による貧困層居住地の解体は、住民の居住の権利や生存戦略に直接関係しており、それらに対応する様々なコミュニティ参加の取り組みがなされてきた。本稿ではアジアの発展途上国における関連議論を概観し、そこから得た知見を基に韓国におけるコミュニティ参加の分析を試みた。その結果、韓国におけるコミュニティ参加は、「阻止・抵抗型（強制立ち退きに抗する運動）」・「自主管理型（再定住及び協同共同体型まちづくり）」・協同組合型（貧困層自らによる生産協同組合）」・「エンパワーメント・パートナーシップ型（生産主義的アプローチ）」という特性を持ち、現在も進行中であることを明らかにしている。